

PRESS RELEASE

新国立劇場 2025/2026シーズン 演劇

いま、ここに——[3]

りんごが落ちる

言えなかったセリフ、届かない言葉、溢れ出す本音——
「生きづらさ」を抱える不器用な大人たちの“息継ぎ”の物語。
ノエ征爾の新作書き下ろしを青年座の新鋭・金澤菜乃英が演出！！



宮川安利



梅舟惟永



浜田 学



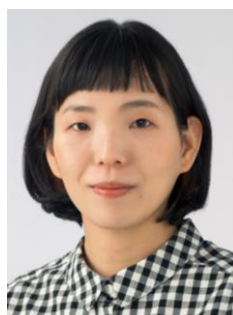
山口森広



大西多摩恵



作
ノエ征爾



演出
金澤菜乃英

2026年6月13日(土)～28日(日) 新国立劇場 小劇場
チケット好評発売中！

【写真・資料のご請求、取材のお問い合わせ】

新国立劇場 制作部演劇 広報担当 杉田亜樹

TEL: 03-5352-5738 FAX: 03-5352-5737

E-mail: sugita_a8863@nntt.jac.go.jp

〒151-0071 東京都渋谷区本町 1-1-1



作品について

小川絵梨子芸術監督、任期最後のシリーズ企画「いま、ここに——」のラストを飾る作品！ タフな人に憧れる。でも生きるの難しい。そんな人たちに贈るエール演劇。

小川絵梨子芸術監督、任期最後のシリーズ企画「いま、ここに——」。変わり続ける世界の中で、それでも人はここにいる。ここに、居続ける。いま、ここに生きることと、小さな希望を見いだしていく3つの物語を2026年4月より三カ月連続で上演いたします。このシリーズ企画のラストを飾るのは、ノゾエ征爾の新作書き下ろし『りんごが落ちる』です。

自分の前に立ちはだかる「乗り越えがたい大きな壁」や、他者との断絶感、弱さを打ち明けられない葛藤など、現代を生きる誰もが抱える心の痛み。そんな痛みなどモノともしないタフさに憧れながらも、生きづらさを感じている人々を、「recover」や「cure」をキーワードに、ノゾエ征爾の誠実でユーモアあふれる筆致で、愛情いっぱい描き出します。

ノゾエ自身が感じる「生きづらさ」を描こうとしたとき、行き着いたのは、自身が慣れ親しんだ演劇の世界でした。物語の主人公は、久々の舞台で主演を務めるも、初日の舞台上で突然セリフを忘れ、ラスト10分を沈黙劇にしてしまった、舞台俳優・田端光太郎。その夜、一人台所に立つ彼の元へ、日常に「行き詰まった」人々——学生時代の演劇部の後輩・猿橋、出演舞台の演出家・鴨川、隣の家に住む鶴野が次々と訪ねてくる。さらに兄のことを心配する妹・夢子から連絡が来るが会話はままならない。言えなかったセリフ、届かない言葉、溢れ出す本音——。それぞれの人生で止まっているセリフたちは、果たして再び動き出すのか……。

主人公の舞台俳優・田端光太郎を演じるのは、浜田 学。田端の学生時代の演劇部の後輩・猿橋 通には山口森広。田端が現在出演中の舞台演出家・鴨川 言には梅舟惟永、田端の住む家の隣人・鶴野郷美には大西多摩恵。そして田端の妹・夢子を、宮川安利が演じます。

本作の演出を担うのは、青年座の気鋭の演出家・金澤菜乃英。新国立劇場には、今作が初登場となります。ノゾエ征爾と金澤菜乃英、初タッグとなる二人がお届けする、不器用な大人たちの“息継ぎ”の物語にどうぞご期待ください。

あらすじ

台所に一人立つ男。ベテラン舞台俳優の田端光太郎。

1時間前、彼は舞台上にいた。近年仕事が減る中、久々に舞台の主役が巡ってきた。

迎えた初日。セリフが止まった。ラスト10分が沈黙劇となった。

田端は今、台所に立ち、料理をしている。二人暮らしの小学生の息子は合宿で不在だ。

そこへ、学生時代の後輩・猿橋が。この舞台の若い演出家・鴨川が。お隣の婦人・鶴野が。それぞれの事情で訪ねてくる。そして地元で働く妹・夢子からは、何度も気遣いの連絡がくる。

行き詰まり、息が詰まっているアンバランスな人々の、ズレた思いやりと身勝手が錯綜する。

田端は果たして、本当にセリフを忘れたのか？ 明日セリフは言えるのか？

それぞれの人生で止まっているセリフたちが動き出す。

りんごが落ちる。誰が拾う。

作家・演出家からのコメント・プロフィール



【作】ノゾエ征爾 NOZOE Seiji

脚本家・演出家・俳優。劇団「はえぎわ」主宰。1999年に「はえぎわ」を始動し、以降、全公演の作・演出を手掛ける。2012年『〇〇アル風景』で第56回岸田國土戯曲賞を受賞。劇団外の近年の主な舞台作品に、COCOON PRODUCTION 2026 Bunkamura オフィシャルサプライヤースペシャル『アンサンブルデイズ—彼らにも名前はある—』（演出）、世田谷パブリックシアター『ロボット』（潤色・演出）、モチロンプロデュース『ボクの穴、彼の穴。W』（翻案・脚本・演出）、彩の国さいたま芸術劇場「音楽劇『死んだかいぞく』（脚本・演出）など。新国立劇場では『ピーター&ザ・スターキャッチャー』『ご臨終』の演出を手掛けたほか、『デカログ』（プログラムA）に出演。

<コメント>

「ああ、書けない。

舞台上でセリフが止まってしまった俳優の物語のセリフ(の執筆)が止まってしまった。

別件で中断しながらも、なんだかんだ書き始めて1年弱ほど経つ。

合間で提出してきた原稿は、制作さんたちにも『面白いいい！』と言っていたようにのだが、終盤のここに来てピタッと止まってしまった。

もう、数週間、一行も進んでいない。

望んでいないのに——物語の中のセリフが止まった男の気分をまさに味わっている。登場人物と共に歩めということだろうか。

そういうことならば、より活きた人物が描けて意味もある気はするが、共に歩もうがなんでもいいからともかく早く書き上げてくれ！

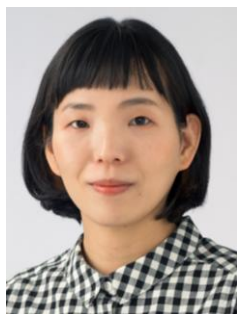
という現場の悲痛な声が毎夜頭の中でこだまする……」

みたいなことが、きっと今日もどこかで起きている。

なかなか報われない生活者たち、作家たち。生きにくさと真正面からぶつかって、痛みを抱えて、優しさを抱いて、強く生きたいと思っている人たち。

それはまさに自分であるし、身近にいるあの人やこの人だ。

だからこの作品を書かなくてはと思いました。乞うご期待ください。



【演出】金澤菜乃英 KANAZAWA Nanae

東京都出身、越後妻有在住。2010年多摩美術大学映像演劇学科卒業後、青年座研究所入所。12年劇団青年座文芸部入団。演出部や演出助手を経て、15年『二人だけのお葬式～かの子と一平～』（作/吉永仁郎）で演出家デビュー。16年『天一坊十六番』（作/矢代静一）で青年座本公演初演出。最近の演出作品に『東京ストーリー』（作/松田正隆）、『時をちぎれ』（作/土田英生）、『諸国を遍歴する二人の騎士の物語』（作/別役実）、音楽劇『プレビュー』（作/早船総）[以上、青年座]、その他に『ミュージカルおれたちは天使じゃない』『イツフオーリーズ』、『イェルマ』[劇団昴ザ・サード・ステージ]など。

<コメント>

舞台上で台詞が止まりラスト10分間を沈黙劇にしてしまった主演俳優が、「来訪者たち」と過ごす公演初日の夜。

家業の老舗和傘屋を継いで演劇活動を諦めた大学の後輩、人生の勝負をかけて臨んだ公演を沈黙劇にされた演出家、夫に入れてもらうまでドアの外に佇むマンションの隣人、兄の心配ばかりしている美容師の妹。

それぞれに肩身が狭い境遇を抱えているようだ。

息苦しい生活の中、どこで息継ぎができるのだろう。

劇を観ているのか？生活を覗いているのか？

舞台と客席の境目が溶けていくように、ちょっと可笑しくて不思議な“ノゾエワールド”へ一緒に足を踏み入れてみませんか。

演劇という虚構の世界と、日常という現実の生活を往来するような体験を、劇場で共有していきたいです。



浜田 学 HAMADA Manabu ————— **田端光太郎**

1995年に文学座附属演劇研究所へ入所。97年、ドラマ『七曲署捜査一係』で俳優デビュー。主な出演作に映画『By 6 am 夜が明ける前に』『道で拾った女』『仕掛人・藤枝梅安2』『わたしの幸せな結婚』『レジェンド&バタフライ』『あいたくて あいたくて あいたくて』、ドラマ『ストーブリーグ』『北方謙三 水滸伝』『新・暴れん坊将軍』『No Activityシーズン2』『マルス-ゼロの革命-』『東京の雪男』『探偵ロマンス』など。

【主な舞台】『真夏の夜の夢』『ドイツの犬』『リチャード三世』『テレーズとローラン』『吉本百年物語』『真夜中のパーティ』『ストーン夫人のローマの春』『バーム・イン・ギリヤド』など。



山口森広 YAMAGUCHI Shigehiro ————— **猿橋 通**

11歳で俳優デビュー。以降、ドラマ、バラエティ、CM、舞台と多方面で活動。2012年、劇団ONEOR8に入団。19年、短編映画『しあわせのかたち』で第5回福井駅前短編映画祭最優秀主演男優賞受賞。20年には短編映画『捨てて 捨てないで』で脚本・監督に挑戦しグランプリなど様々な賞を受賞した。これまでの主な出演に大河ドラマ『べらぼう～薫重栄華乃夢噺～』、ドラマ『リビングの松永さん』『ホットスポット』など。

【主な舞台】『ママごと』『サザエさん』『誕生の日』『緑に満ちる夜は長く…』『かれこれ、これから』『ブラック・コメディ』『パラサイト』『あの夜であえたら』『サンセットメン』『夜は短し歩けよ乙女』『三匹のおっさん』『あつ 苦しい兄弟』『デンキ島～白い家編～』など。



梅舟惟永 UMEFUNE Ariei ————— **鴨川 言**

早稲田大学在学中に早稲田大学演劇倶楽部に所属し演劇を始め、2007年、同期5人と共に劇団「ろりえ」を結成する。これまでの主な出演に映画『金髪』『旅と日々』『夜明けのすべて』『寝ても覚めても』、連続テレビ小説『らんまん』『なつぞら』『梅ちゃん先生』、ドラマ『顔のない患者-救うか、裁くか-』『東京サラダボウル』など。

【主な舞台】『肅々と運針』『4ドル 50セントとろりえの年末』『君とならどんな夕暮も怖くない』『平山建設』『some day』『空と東京タワーの隣の隣』『ミセスダイヤモンド』『ありがとねえ！』『カズオ』など。



宮川安利 MIYAKAWA Ari ————— **田端夢子**

桐朋学園芸術短期大学演劇科在学中に流山児★事務所にて活動後、卒業後に渡米。ニューヨークのアルビン・エイリー・ダンス学校、マリー・マウント・マンハッタン大学演劇科で学ぶ。帰国後、宮川彬良のコンサートにゲスト出演をするなど歌手としても活動の場を広げている。

【主な舞台】『ナツユメ』『リア王の悲劇』『赤ひげ』『オンディーヌ』『モンスタージュリエット～スキのある世界～』『うたかたのオペラ』『真夏の実験音楽劇場』『ハムレット』『ナインテイルズ～九尾狐の物語～』『田園に死す』『無頼漢』『アトミック☆ストーム』『地球☆空洞伝説』『リア王』など。



大西多摩恵 ONISHI Tamae ————— **鶴野郷美**

1997年、無名塾に一期生として入塾し、2000年に退塾。在籍中から、舞台、映像、声優と活動は多岐にわたる。これまでの主な出演に映画『ルノワール』『35年目のラブレター』『DEAD OR ZOMBIE』『PLAN 75』、ドラマ『介護スナックベルサイユ』『終幕のロンド』『ひとりでしにたい』『しあわせは食べて寝て待て』『スロウトレイン』『高杉さん家のおべんとう』『結婚するって、本当ですか』、吹替『運び屋』『イカゲーム』『ダメージ』など。

【主な舞台】『黒百合』『また本日も休診～山医者のおた～』『バリカンとダイヤモンド』『りぼん』『妄想先生』『悼、灯、斉藤』『血の婚礼』『脚光を浴びない女』『チョコレートドーナツ』『少女仮面』『豊饒の海』など。新国立劇場では『こんにちは、母さん』に出演。

公演概要

いま、ここに——[3]『りんごが落ちる』

【作】ノゾエ征爾

【演出】金澤菜乃英

【美術】池田ともゆき

【照明】中川隆一

【音響】上田好生

【衣裳】柿野 彩

【ヘアメイク】川端富生

【演出助手】鈴木 修

【舞台監督】野口 毅

【主催】新国立劇場

【キャスト】浜田 学、山口森広、梅舟惟永、宮川安利、大西多摩恵

【公演日程】2026年6月13日(土)～28日(日)

【会場】新国立劇場 小劇場

【料金(税込)】A席 7,700円／B席 3,300円／Z席(当日)1,650円

【一般発売】2026年4月12日(日)10:00～

【チケット申し込み・お問い合わせ】

新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00～18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <https://nntt.pia.jp/>

* **Z席1,650円** Z席は、公演当日朝10:00から、新国立劇場Webボックスオフィスおよびセブン-イレブンの端末操作により全席先着販売いたします。

先着販売後、残席がある場合は、公演当日朝11:00からボックスオフィス窓口でも販売いたします。※電話予約不可。

* **当日学生割引** 公演当日残席がある場合、Z席を除く全ての席種について50%割引にて販売。要学生証。電話予約可。

* **各種割引** 新国立劇場では、高齢者割引(65歳以上5%)、障がい者割引(20%)、学生割引(5%)、ジュニア割引(小中学生20%)、アトレ会員割引(5～10%)など各種の割引サービスをご用意しています。

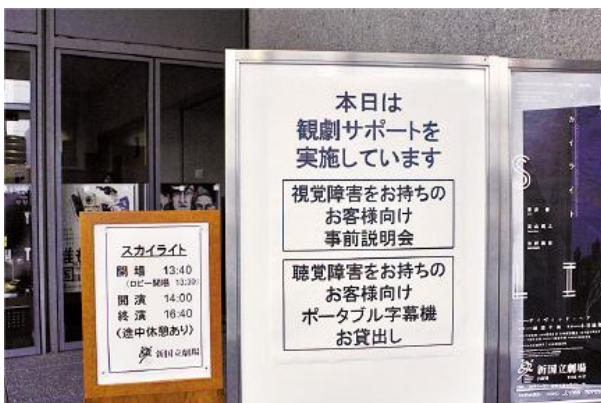


目や耳に障がいのあるお客様への観劇サポート

本公演では視覚・聴覚に障がいのあるお客さまへ、観劇サポートをご提供いたします。
 ※サポートは無料。要予約、定員あり。

2026年5月18日(月)10:00より予約開始

| | |
|--|--|
| 目に障がいのあるお客様への 開演前舞台説明会 &リアルタイム音声ガイド | ① 6月22日(月) 14:00開演 ② 6月24日(水) 14:00開演 |
| 耳に障がいのあるお客様への ポータブル字幕機の貸し出し | ① 6月26日(金) 14:00開演 ② 6月27日(土) 13:00開演 |



劇場前の表示



受付には、手話通訳者と要約筆記者も



開演前舞台説明会の様子



舞台模型に触って、形状を体感している様子

いま、ここに——[1]『ガールズ&ボーイズ』



【公演日程】2026年4月9日(木)～26日(日)
【会場】新国立劇場 小劇場
【作】デニス・ケリー 【翻訳】小田島創志 【演出】稲葉賀恵
【出演】真飛 聖／増岡裕子 (Wキャスト)

ものがたり

人生、どうすればいいか分かんなくなった。このままじゃだめだって思って。だから、一人で旅に出たの。そしたら、イタリアの空港で彼に出会った。まるで映画みたいに。恋に落ちて、結婚して、二人の子どもも生まれて、仕事だって順調で.....すべてがうまく転がっていく気がしてた。だけど、ほんのちょっとしたことで、少しずつズレ始めて。気づいたときには——もう戻れない場所にいた。これは、そんな「わたし」の話。

いま、ここに——[2]
『エンドゲーム』[フルオーデション Vol.8]



【公演日程】2026年5月20日(水)～31日(日) プレビュー公演:2026年5月15日(金)～16日(土)
【会場】新国立劇場 小劇場
【作】サミュエル・ベケット 【翻訳】岡室美奈子 【演出】小川絵梨子
【出演】近江谷太朗、佐藤直子、田中英樹、中山求一郎

ものがたり

家具のない室内。舞台奥に小さな窓が二つ。カーテンは閉じている。壁際にごみバケツが二つ、並んで置いてある。古ぼけたシーツを被って車椅子にかけている盲目のハム。もうひとり、クロヴが不自由な足取りで室内をウロついている。どうやら主従関係のようだ。二人はとりとめのない会話を続け、ハムは常にクロヴに文句を言い、怒鳴り散らし、イライラしている。クロヴはたまに外を覗いたりもするのだが、見えるのは殺伐とした風景のみ。お互い、そんな日常に絶望しうんざりしていた。やがて退屈のぎにハムが、バケツの中の人間に話しかける。中にいたのは彼の父親らしい。そしてもうひとは.....